

国際コメ年

2004

コメは、世界の人口の半数以上に相当する 300 億人もの人々の主食です。アジアやアフリカを中心に 8 億人存在する栄養不足人口の削減や貧困の撲滅に向け、コメが大きな役割を果たすことが期待されます。

このような認識の下、国連は 2004 年を「国際コメ年」と定め、コメの重要な役割について、広く一般の方々の認識を高めるため、世界各国が連携して行動していくこととしました。

我が国において、コメ・水田・稲作は、遠い昔から日本人の生活を支え、我が国の発展に貢献してきました。水田はコメの生産の場であるばかりか、水源の涵養や国土の保全、文化の伝承など、多面的な機能を有しています。こうした役割の大切さを幅広い皆さんに認識してもらうことが必要です。

コメは、世界一の長寿国である我が国の主食として、健康で豊かな「日本型食生活」の中核をなしています。食のバランスの乱れが指摘されている現在こそ、ごはんを中心とした健全な食生活のあり方について、あらためて考えてみてはいかがでしょうか？

Rice is life(おコメ、私たちの命)。国際コメ年のキャッチフレーズです。

本年をきっかけに、コメ・水田・稲作の果たす役割や、ごはんを中心とした豊かで健康な食生活、世界の食料事情などについて理解を深めてみませんか？

(東海農政局パンフレットから)

四谷の

千枚田だより

第 14 号

台風を逃れて青む千枚田
薬の穂に揺るる鈴花

四谷 志子

こどもタイムス・わくわく探検隊

(十月十日中日新聞掲載)

九月二十五日、四谷千枚

田へ中日新聞こども記者六名が取材に訪れました。

こども記者を代表して、笠原龍太郎君(半田市乙川小 5 年)が取材した率直な作文を紹介します。

バスに二時間乗って四谷千枚田に行きました。着くとぼくのみたことのないきれいな景色でした。山をかきわけたように千枚田はありました。始めにおじさんにはなしを聞きました。棚田が真しようめんからみえるのは、ここだけだそうです。正面に見える鞍掛山は 883m の山でその鞍掛山にふった雨が湧水となって棚田をうるおし米をつくつ

ているそうです。でも、1

296枚あった水田が42

0枚にへってしまったそう

です。今よりも水田が多く

あったなんて、どんな景色

だったんだろう。もつと棚

田が広がっているのをぼく

は見たかったなと思いまし

た。お昼は、そこで取れた

米の五平もちを食べました。

できるだけ農薬をまかない

ようにしているそうです。

きれいな空気とタニシが

いっぱいいるきれいなみず

でつくった米のごへいもち

はとってもおいしかったで

す。次に稲刈りをしました。

稲刈りをする場所まで移動

する時電気を流している線

がありました。この辺りは

イノシシやサルがいっぱい

出るので電気をながしてい

るそうです。ぼくは線をま

たぐ時ふれそうだったので

どきどきしました。上に登

っていくと稲刈りの場所が

ありました。やり方を教え

てもらいました。やり方を教え

てもらいカマで刈りました。

暑い日で一生けんめいやっ

ていたら汗をいっぱいかき

ました。やったことがなか

ったのでとても楽しくても

つとやりたかったです。ぼ

くは、こども記者として四

谷千枚田に行けて友達もで

きてよかったです。

取材してお米を作ったり

棚田を維持していくのにい

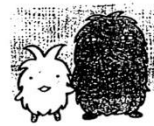
ろいろな工夫や苦労がある

んだなと思いました。この

棚田をまだ見ていない人に

見てほしいと思いました。

自然はやっぱりすばらしいと実感しました。



愛・地球博
AXPO
2005 AICHI
JAPAN



棚田サミット
2005 鳳来町
四谷千枚田

黄柳野高校労働体験

黄柳野高校理念…《日本の教育史上初めての「市民立高校」》
 内申点や偏差値などの数字のみでは計り知れない多様な能力と可能性を秘めながらも、高校進学を断念せざるを得ない全国の若者達に、友と交流する場を提供しようとするものです。「中途退学してしまったがもう一度やり直したい」「内申点は低い、得意な分野で自分の力を精一杯伸ばしたい」…

こうした子どもたちも心を開き、人間への信頼を回復し、学ぶ喜びを得られるなら、自らを再発見し、その持てる力を未来に向かって開花させることが可能です。

鳳来町黄柳野の豊かな自然と心温まる人々、この恵まれた地で人間として自立を目指し、生徒一人ひとりの力を引き出せ得る全寮制の高等学校—これが黄柳野高校です。

黄柳野高校一年生は労働体験の一環として四谷千枚田で田植えから収穫までのすべての農作業を行っています。

10月14・15・16日にはABC組の生徒達が慣れない手つきで稲刈り作業に汗を流しました。



千枚田を耕す会

「田吾作」からのお知らせ

十二月十二日(日)、千枚田「ふれあい広場」で餅つき大会を行います。

鞍掛山の清らかな湧き水と有機、無農薬の棚田で育てたこだわりの餅米「鈴原」でつく餅は食味・安全性共に自信を持っております。

植 栽

千枚田を見下ろす「ふれあい広場」の斜面にアジサイが植えられました。

早苗の頃から梅雨時期にはふれあい広場にアジサイが咲き、千枚田に彩りを与えることと思えます。

プランターでの苗つくりの呼びかけ

サミットに向け、景観整備の一環として「ふれあい広場・ぼっとり・水車小屋」などに木製組立式のプランターを設置、花いっぱい運動を展開します。

花壇の組み立て、プランターでの苗づくりなどは連谷小学校の生徒、お助け隊、田吾作、棚田っ娘、保存会や地域の皆さんの協力が必要です。

協力していただく詳細については後日連絡しますのでもよろしくお願ひします。

湧き水

▽今年六月から台風が十個も上陸した。

…まだ、一つ上陸を伺っている。雨ばかり降りやあがつて、おかげで稲刈り、脱穀がちつとも出来やせんでえらい目にあつた。挙げ句にイノシシまでが田んぼを荒らし回つた。

…イノシシでも利口なもので、旨い米を狙ってくるのだのん…

行 平成十六年十月二十日
 鞍掛山麓千枚田保存会
 発 文責 小山舜二

千枚田に句碑

十月吉日、時野 恭さん

(鳳来町富栄)の俳句「千枚田植えて天まで水明かり」と詠まれた句碑が千枚田の巨岩に奉られました。

時野さんは、「林苑(俳句)」編集委員、「武都紀(短歌)」編集発行人として、また、鳳来町文化協会会長と

して町の文化の発展に寄与されています。



句碑は古宿の「ぼっとり」近くの村雲伸一さんの田ん

ぼの巨岩にあります。

稲刈り体験

九月二十五日、やまびこの丘主催、鞍掛山麓千枚田保存会協賛の親子稲刈り体験が千枚田で行われました。

当日は都市近郊から親子二十六名が参加、慣れない手つきで稲刈りに挑戦しました。